

三〇二三番

隠り沼こもぬの 下ゆ恋したこひ余あまり 白波しらなみの いちしろく出い
でぬ 人の知ひとしるべく

三〇二四番

妹いもが目めを 見みまくほり江えの さざれ波なみ しきて恋こ
ひつつ ありと告つげこそ

三〇二五番

石走いはばしる 垂水たるみの水みづの はしきやし 君きみに恋こふらく
我が心わがこころから

三〇二六番

君きみは来こず 我われは故ゆゑなく 立たつ波なみの しくしくわび
し かくて来こじとや